

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【東岩槻小・中・中等教育学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	(1)主に算数の授業において、学習内容を文脈や目的に応じて関連付けて理解する資質・能力 (2)主に算数の授業において、既習事項を活用しながら自ら課題を捉え、適切に表現・解決していく資質・能力
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)「なんのためにその学習内容(知識・技能)を身に付けるのか」を児童自身が捉える時間の設定【各単元の中で1回以上】 (2)既習事項や前時とのずれや違いから、児童自身が解決の必要感を持てる授業の実施【各単元の中で1回以上】

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 結果提供(2月)
↓		
今年度の成果と 次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	【国語】 ・内容別では、主に読むことの領域において正答率が低い。また、問題形式別では、記述式の問題において無回答率が高い。 【算数】 ・領域別では、主にデータの活用において正答率が著しく低い。また、同領域の無回答率が高い。
結果から考えられる 児童生徒の実態	【国語】 ・まとまった量の文章を、目的に応じて読むことに対して困難を抱える児童が多いと考えられる。また、説明文の要旨に、自分の経験を結び付けて考えをもつことに対して困難を抱える児童も多いと考えられる。 【算数】 ・二次元表や帯グラフの見方に困難を抱える児童が多いと考えられる。また、表やグラフの数値から、傾向等を読み取ったり分析することにも困難を抱える児童が多いと考えられる。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業

③	調査結果分析		中間評価
学力向上策の実施状況	評価(※)	(1)単元末にパフォーマンス課題を設定するなどし、そのために身に付けるべき学習内容(知識・技能)を児童と共有することができた。 (2)前時のまとめやふりかえりをもとにした導入を設定することで、本時とのつながりやずれを意識し、解決の必要感を持たせることができた。	
	B		
↓			
学力向上策の見直し	変更なし		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所